

1. 調査の概要

ぐるっと生瀬の利用実態を明らかにするため、アンケート調査を行った。アンケート調査の配布、回収の概要を表 1、表 2 に示した。

表 1 アンケート配布の概要

アンケート配布日	2017年11月26日、27日
アンケート配布方法	西宮市シルバー人材センターが全戸に配布
調査対象者	生瀬地区の16歳以上の住民(各世帯年齢が上の方から2名ずつ)
配布数	3,533世帯(配布部数7,066部)
調査名	「ぐるっと生瀬」に関する調査 2017

表 2 アンケート回収の概要

回収日	2017年11月26日～12月15日
回収方法	郵送 自治会員を通しての回収 自治会館での回収 ぐるっと生瀬内の回収
回収結果	回収部数：1221世帯(1710部) 回収率：34.6%

図 1 に自治会別回答者数を示した。

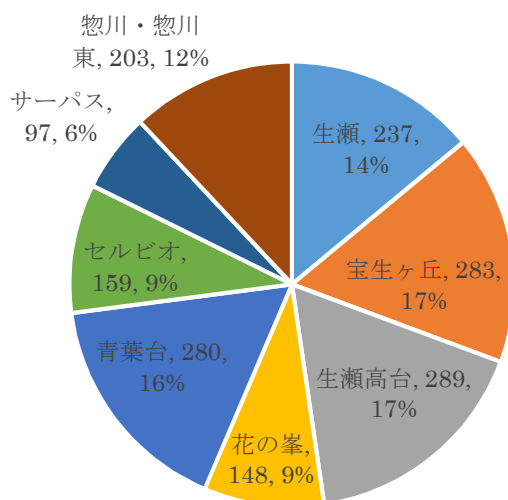


図 1 自治会別回答者数

図 2 に回答者の年齢層を示した。

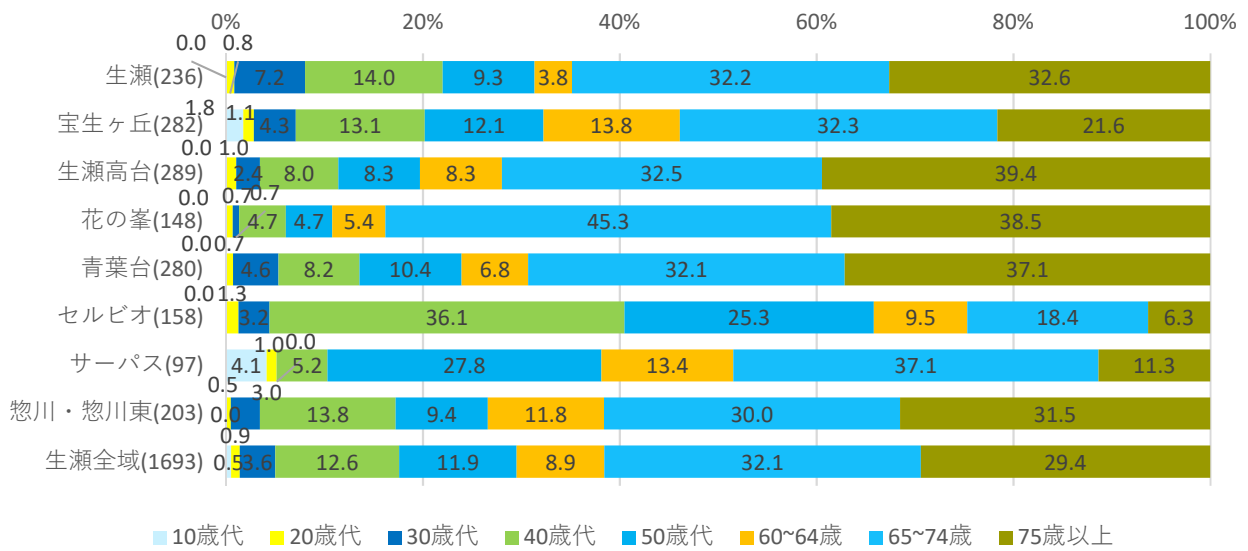


図 2 回答者の年齢層（自治会別）

2. ぐるっと生瀬の利用

これまでぐるっと生瀬を利用したことがあるかと質問し、自治会別の結果を図 3 に示した。

生瀬地区全体の傾向はぐるっと生瀬の運行開始（2015 年 10 月）から 2 年あまりたった段階で本調査を行ったが、利用した経験がある人は 40.6%であった。

自治会別に見ると、宝生ヶ丘、生瀬高台、花の峯、青葉台では、50%以上、サーパスでは 40%以上の方が利用した経験があると回答した。大きく自治会によって差が生じる結果となった。

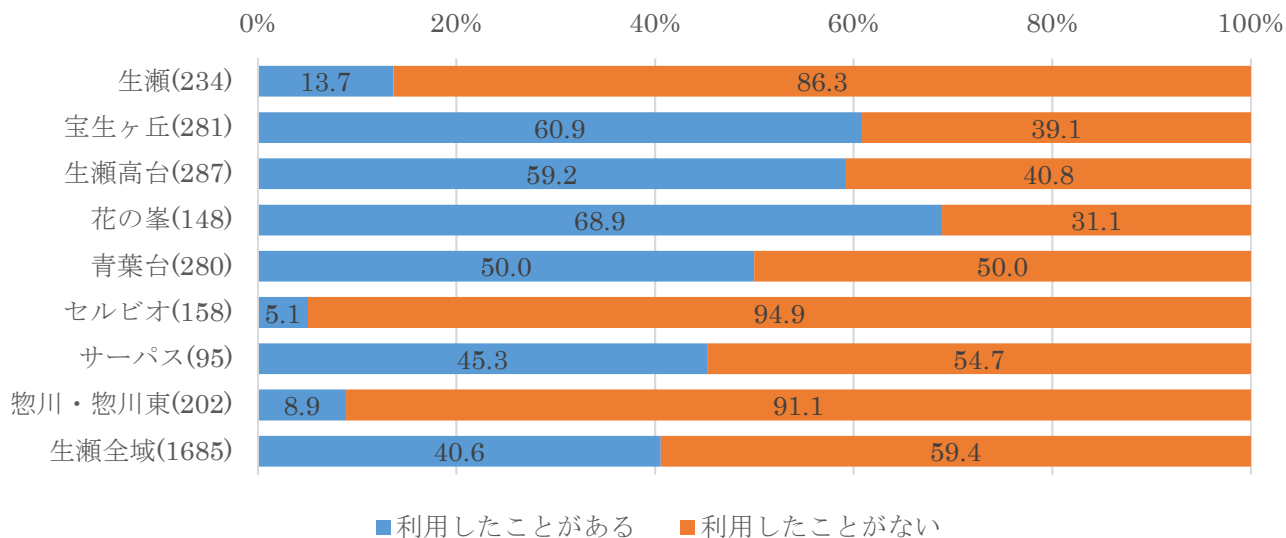


図 3 ぐるっと生瀬の利用経験（自治会別）

図 4 にぐるっと生瀬の利用頻度を示した。

生瀬地区全体では、ぐるっと生瀬を利用したことがある人については、1ヶ月に1回程度という人が最も多く17.5%であった。一方、1週間に2、3日程度という比較的高頻度で使う人も5.4%いることが分かった。

自治会別に見ると、利用経験が比較的高かった自治会の差について考察する。これらの自治会において、ほぼ毎日利用しているという回答は大きくかわらなかったが、週に2、3日と回答している人は、生瀬高台、花の峯で、宝生ヶ丘、青葉台に比べ、多いことがわかった。サーパスはさらに傾向が顕著となっており、ほぼ毎日利用するや週に2、3日利用すると回答した人はさらに少ない。

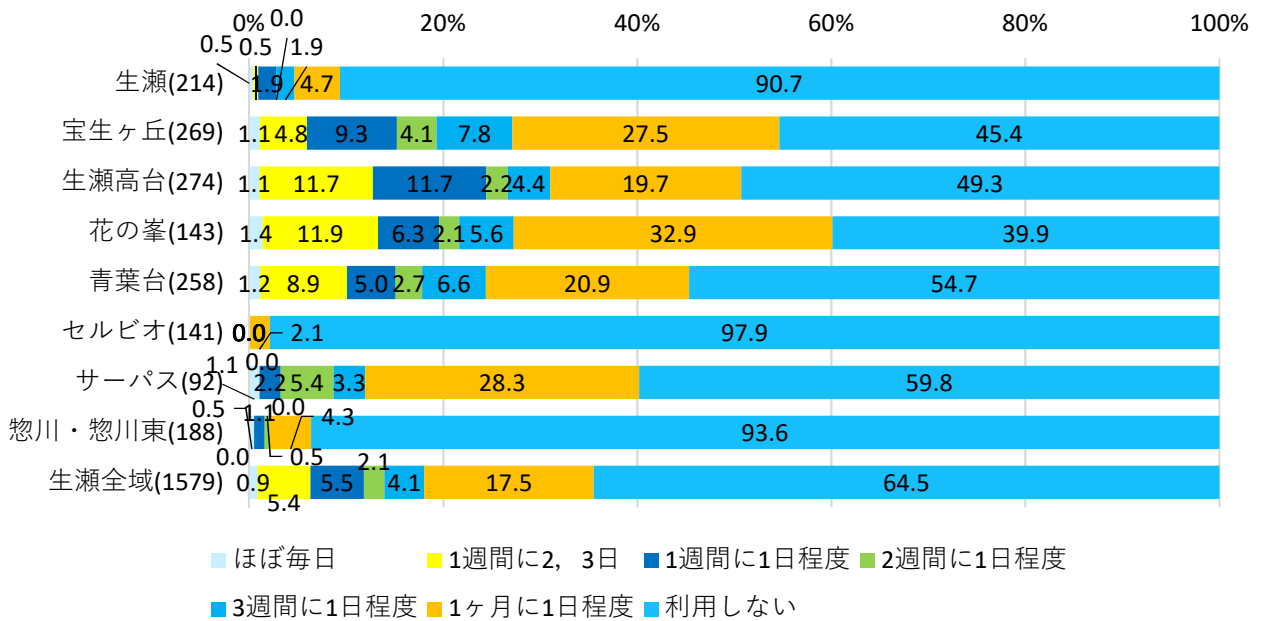


図 4 ぐるっと生瀬の利用頻度 (自治会別)

ぐるっと生瀬を利用している人に対して、ぐるっと生瀬で外出する際の外出目的を複数回答で質問し、その結果を図 5 に示した。

生瀬地区全体では、ぐるっと生瀬を利用している人のうち、52.1%が買い物を目的としてぐるっと生瀬を利用していた。一方、「趣味・娯楽」と言った生きがいにつながると期待される外出も少なくなく、ぐるっと生瀬を利用している人のうち、24.6%となった。

一方、自治会別に見ると、宝生ヶ丘、生瀬高台、花の峯、青葉台は生瀬全体と同様の傾向があるが、生瀬、セルビオ、惣川・惣川東については、その他の利用が多かった。これらの自治会では、買物などの主な利用は、ぐるっと生瀬以外の交通手段を利用しており、そのため、利用頻度が少なくなっている。

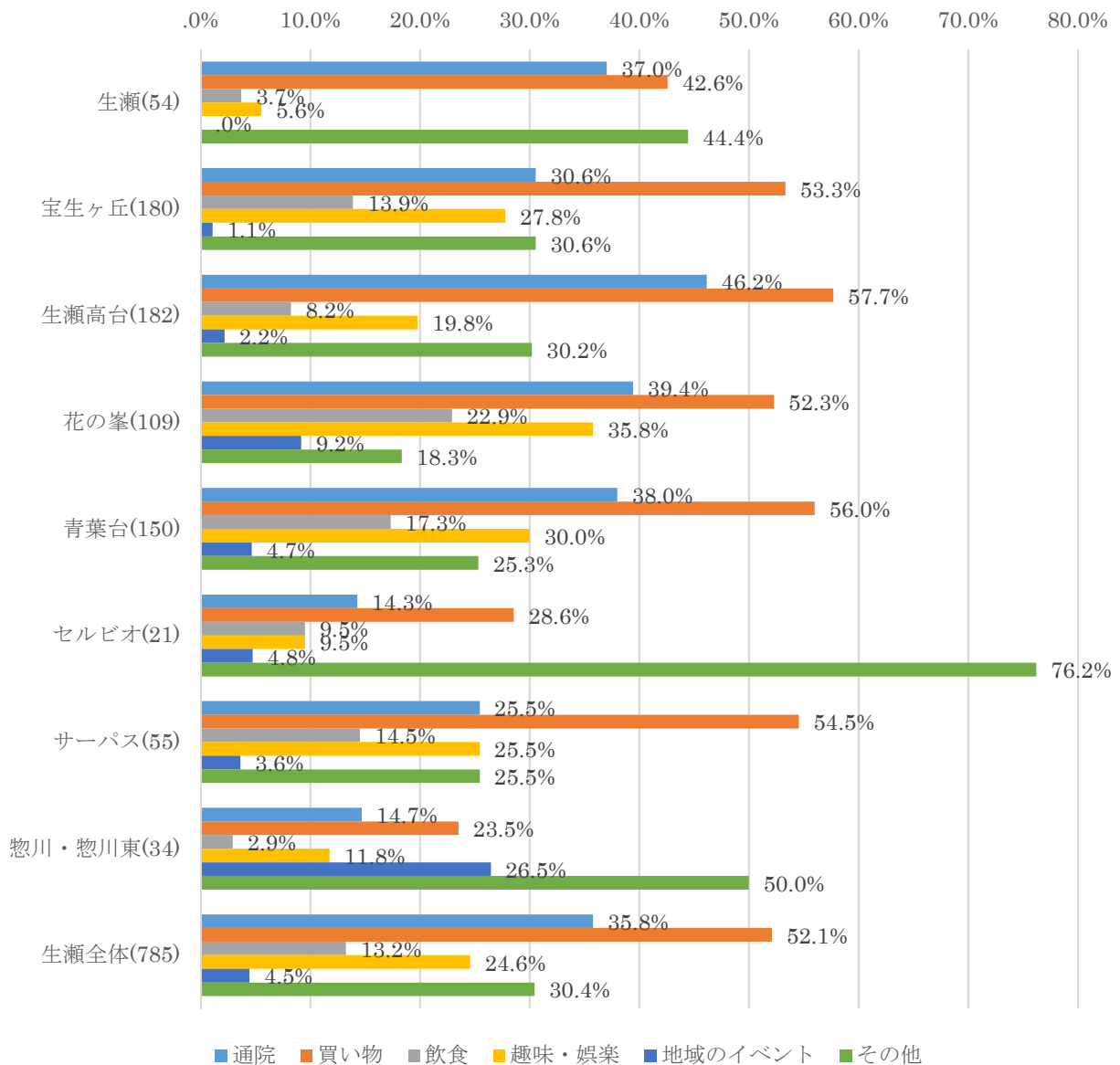


図 5 ぐるっと生瀬で外出するときの外出目的（自治会別）

ぐるっと生瀬を利用している人に対して、ぐるっと生瀬を利用する理由を質問し、図 6 に結果を示した。

生瀬地区全体では、「便利だから」という回答が 62.2%と最も多くなった。ぐるっと生瀬の利便性を評価している人が乗車してくれていることが分かった。

自治会別に見ると、青葉台、生瀬高台、花の峯、宝生ヶ丘では、「便利だから」という回答が多かった。「バスの車内が楽しいから」について、自治会によって差が大きい事がわかった。

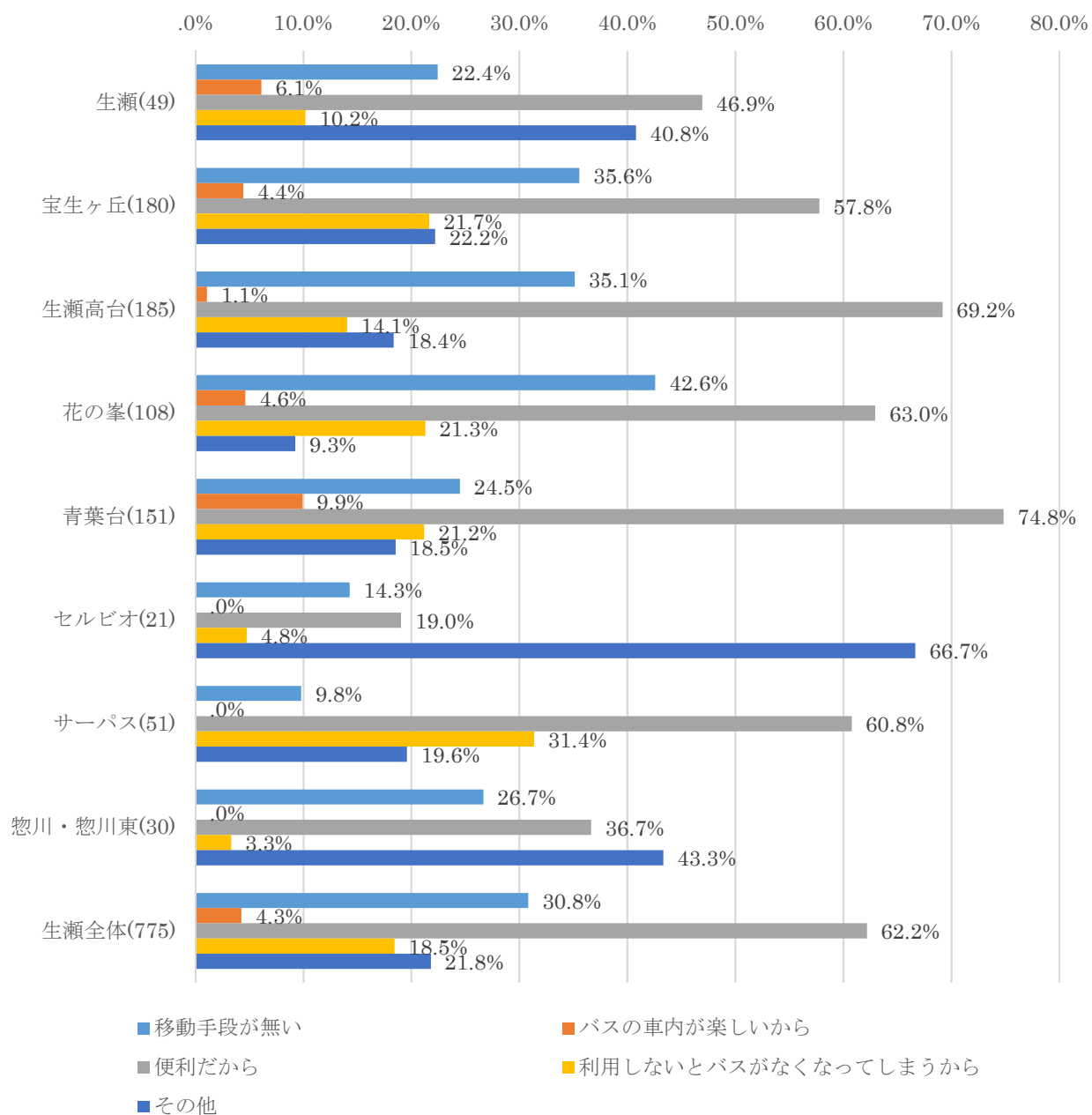


図 6 ぐるっと生瀬を利用する理由（自治会別）

全回答者に対して、ぐるっと生瀬が運行されることによってもたらされた効果について複数回答で質問した。その結果を図 7 に示した。

生瀬地区全体では、80.8%の人が、「住みやすさが向上する」と回答していた。この回答を行った人の中にはぐるっと生瀬を利用したこともない人も、肯定的な回答している。これは、今後、自己や周りの高齢化で今後より地域交通が必要なるという考えがあり、外出の足が確保された事に対する評価であると考えられる。また、「地域住民間でのふれあいが増える」という回答も 42.4%の人が回答しており、ぐるっと生瀬が運行することによる交流の向上もみられる。

自治会別に見ると、いずれの自治会でも「住みやすさが向上する」と言う回答が最も多かった。

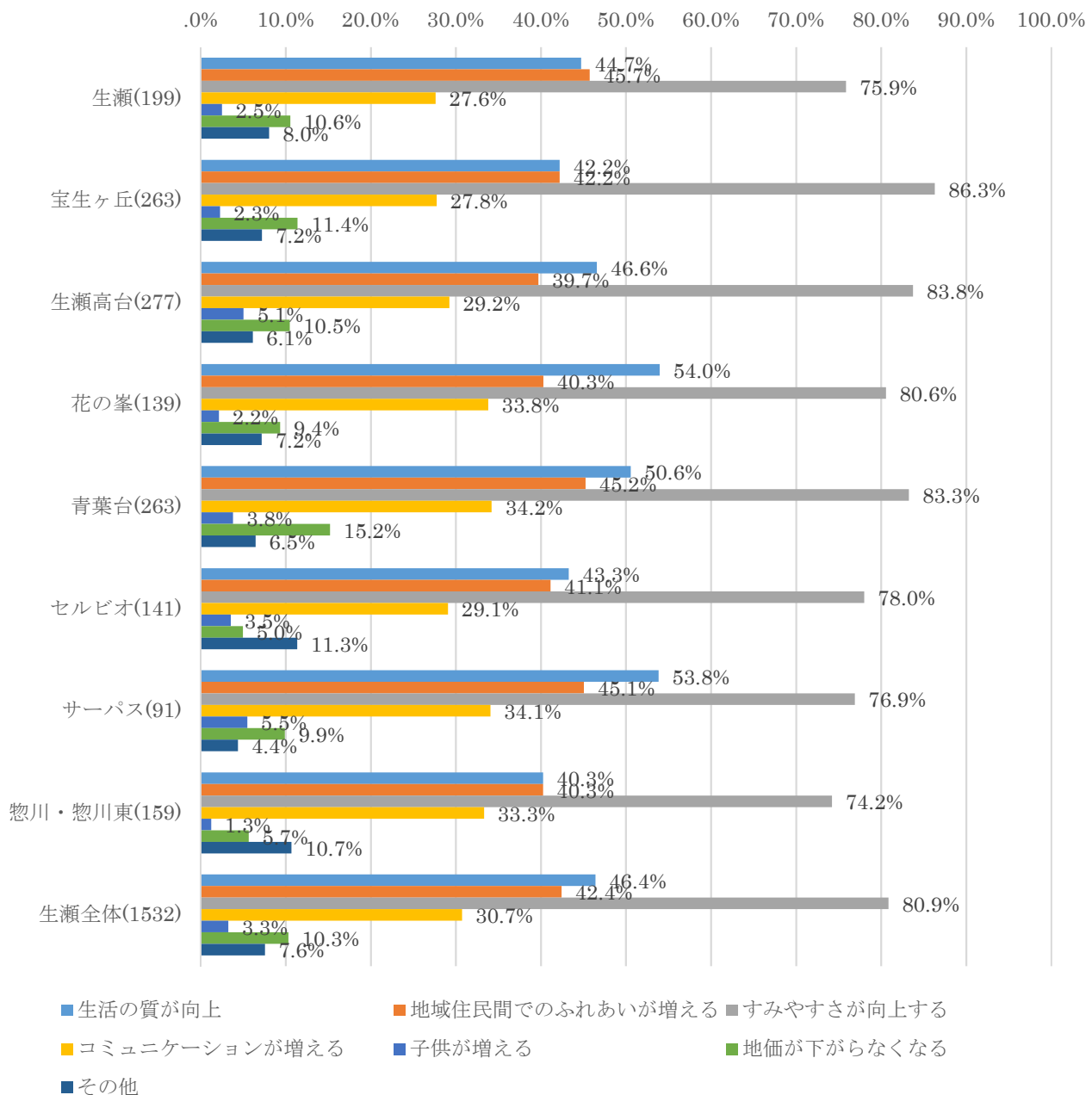
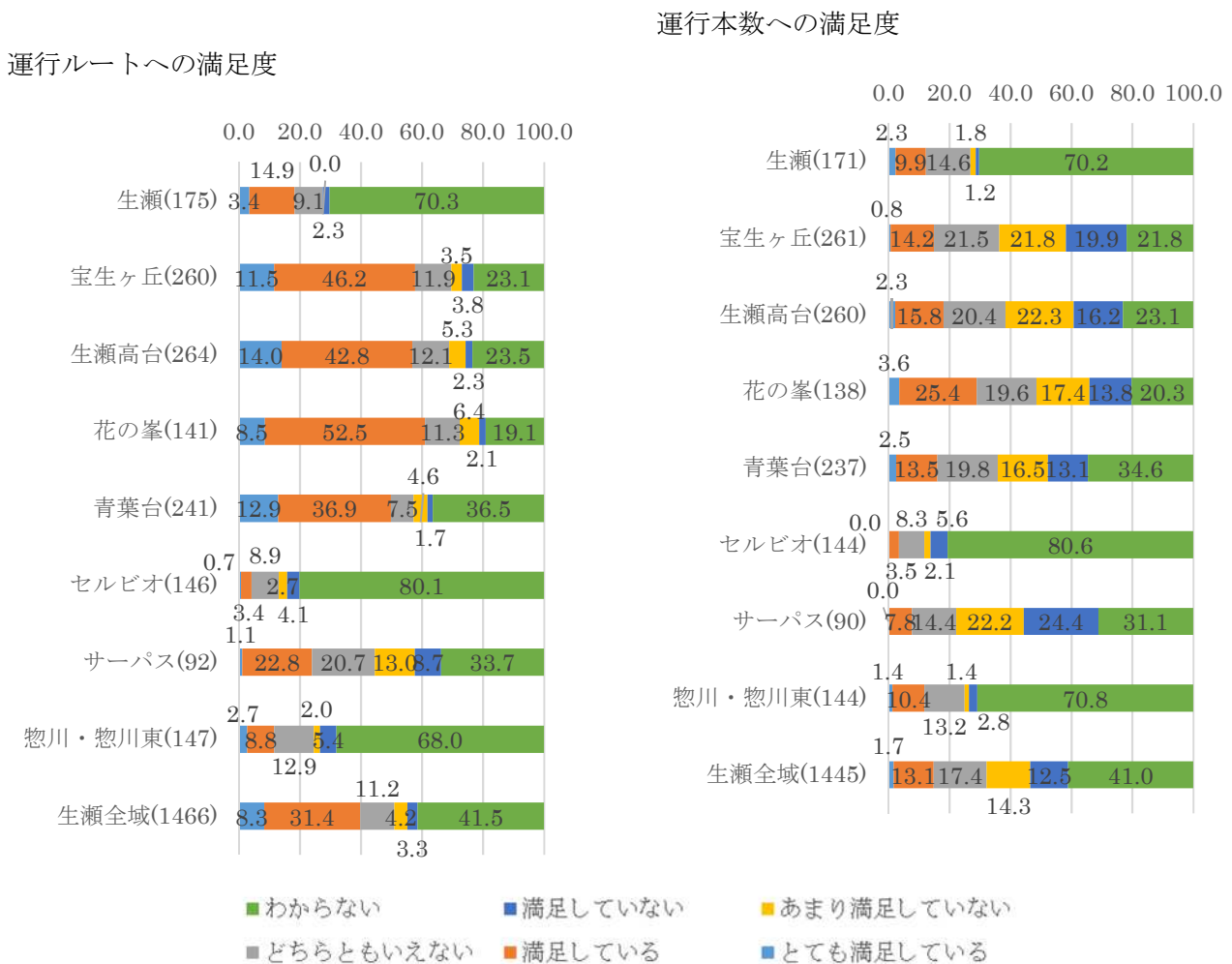


図 7 ぐるっと生瀬によってもたらされた効果（自治会別）

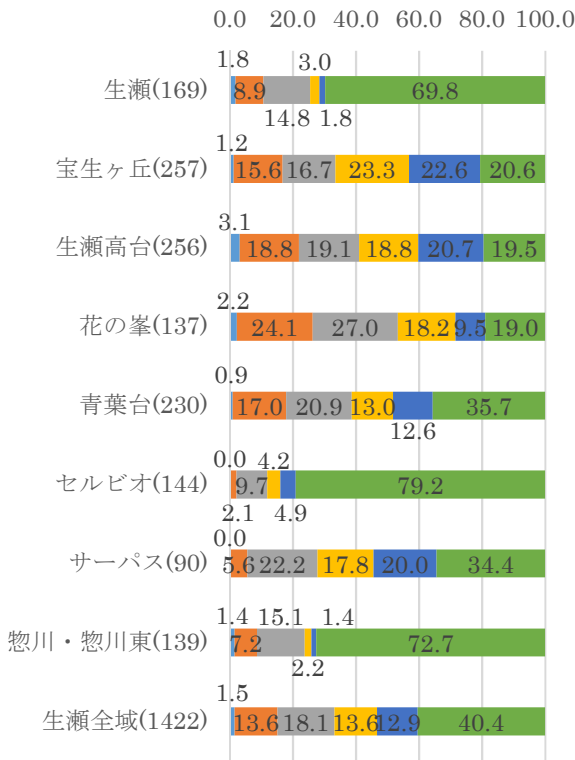
3. ぐるっと生瀬の運行改善に関する意向

図8にぐるっと生瀬の現在のサービスに対する満足度を示した。利用数が少ない自治会からは、「わからない」という回答が多かったため、図9に、「わからない」以外の解答で集計を示した。

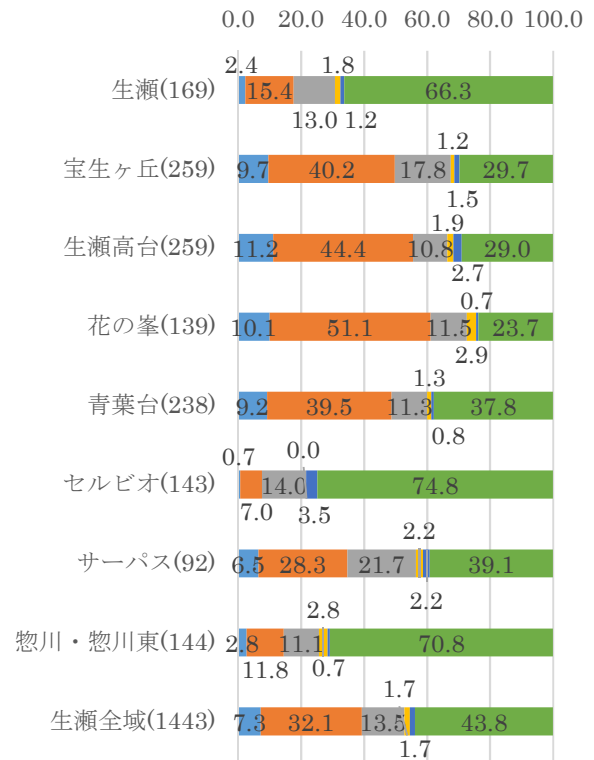
自治会毎の回答を「わからない」以外の解答を集計した図9で考察する。地域全体では、運行ルートへの満足度は比較的高いものの、利用数が少ない自治会であるセルビオ、サーパス、惣川・惣川東においては、運行ルートへの不満は少ないことがわかった。全体の回答では、やや不満足な回答が多かった運行本数においては、サーパスにおいて、運行本数に対する不満が大きいことがわかった。運行時間帯については、宝生ヶ丘、生瀬高台、サーパスなどで比較的高い不満があることがわかった。



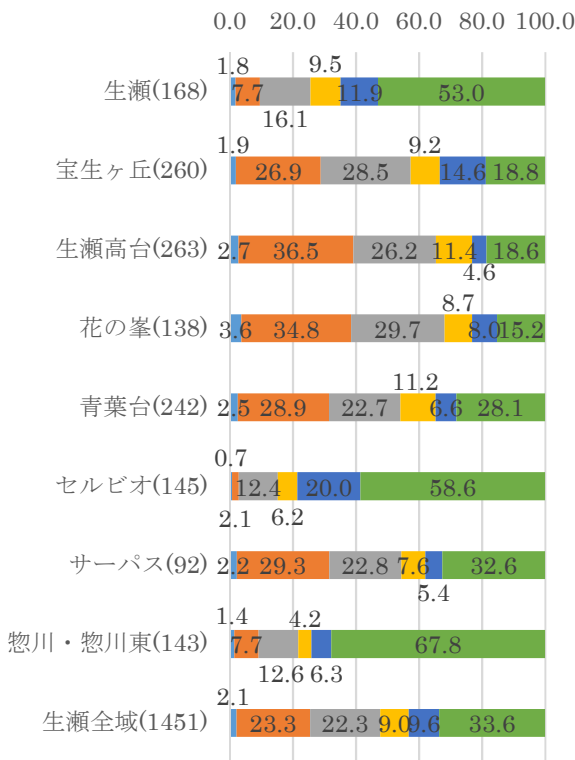
運行時間帯への満足度



運行サービスへの満足度



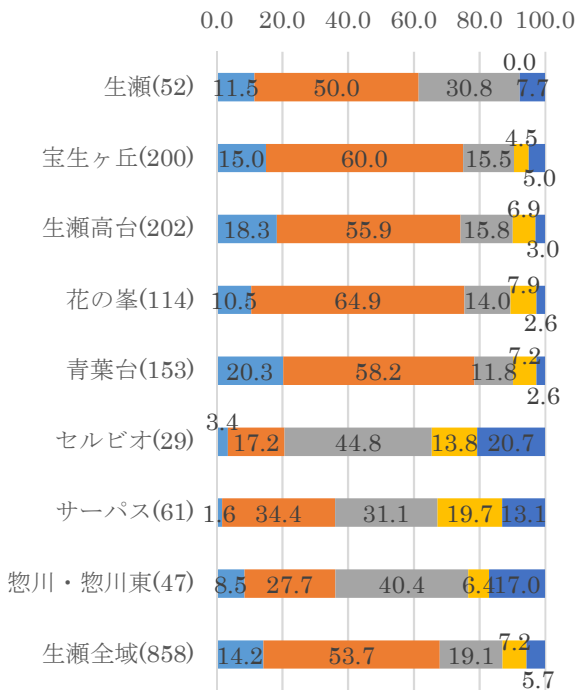
運賃への満足度



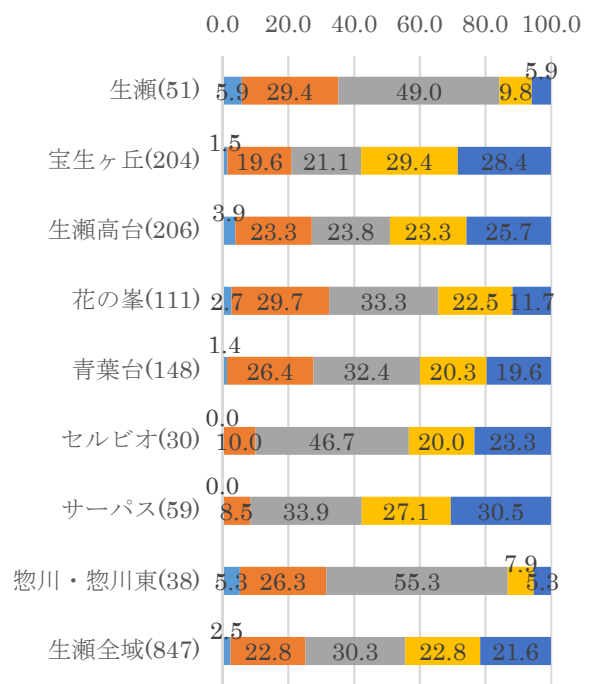
■ わからない ■ 満足していない ■ あまり満足していない
■ どちらともいえない ■ 満足している ■ とても満足している

図 8 ぐるっと生瀬に対する満足度 (自治会別)

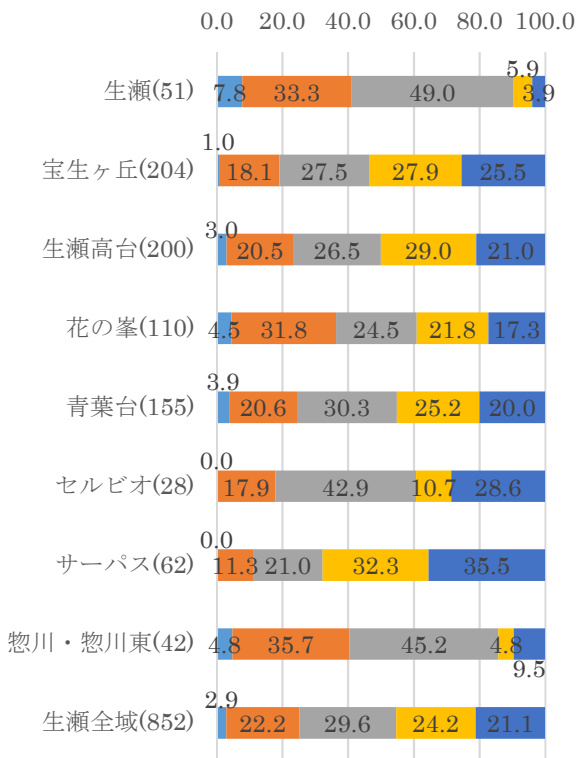
運行ルートへの満足度



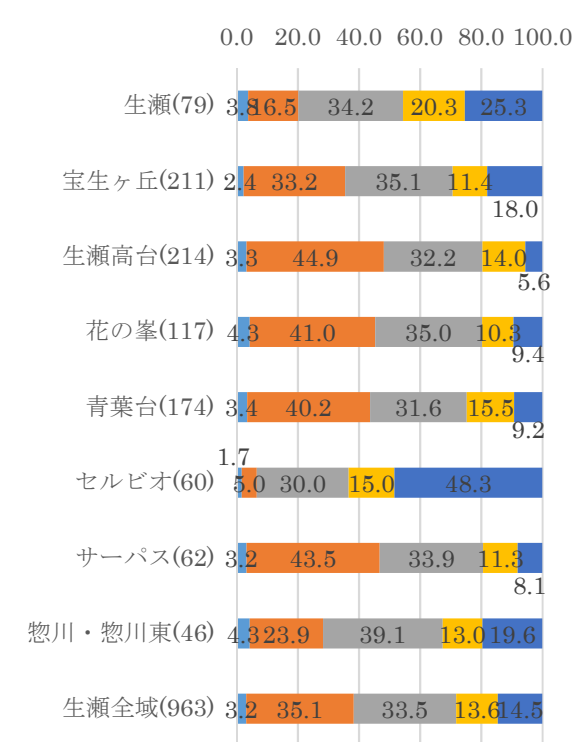
運行時間帯への満足度



運行本数への満足度



運賃への満足度



■ とも満足している
 ■ 満足している
 ■ どちらともいえない
■ あまり満足していない
 ■ 満足していない

運行サービスへの満足度

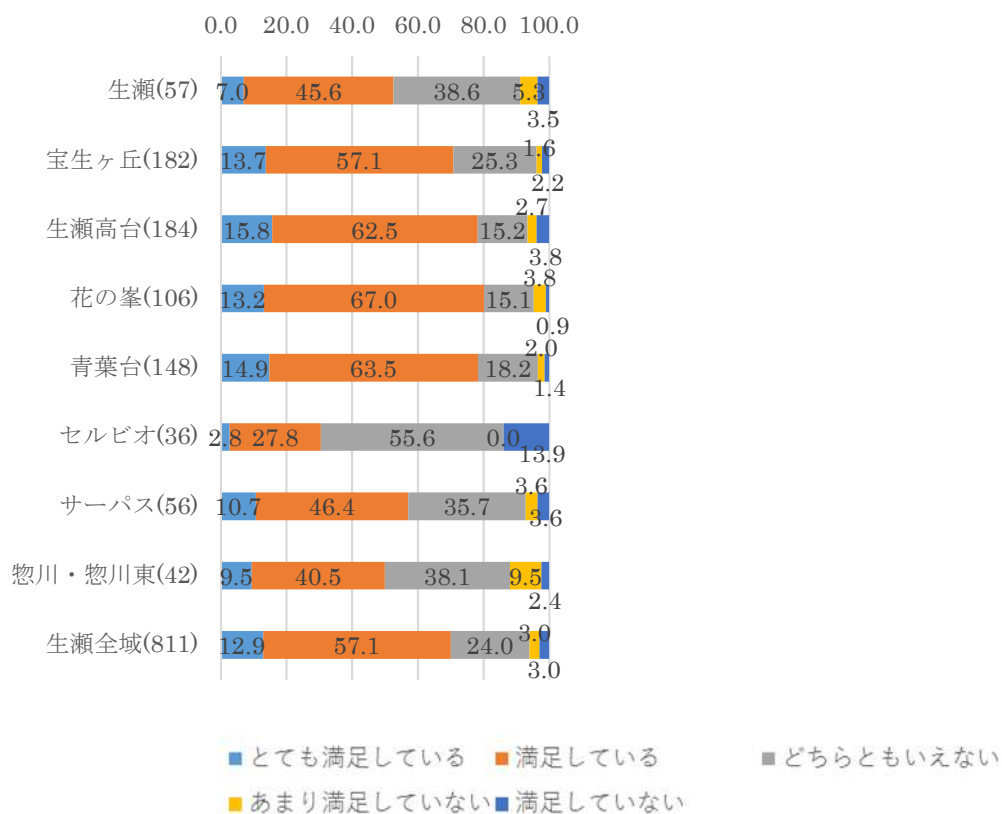


図 9 ぐるっと生瀬に対する満足度（「わからない」以外の回答で集計）（自治会別）

さらに、「運行本数」「運行時間帯」に関する改善として、現在の平日の運行時間帯を拡大し、夕方 18 時台に各ルート 1 往復ずつ運行する夕方の増便と現在ぐるっと生瀬は平日のみの運行で、土日休日は運休している。土日も運行し、増便をはかる方法が考えられる。以降では、夕方の増便と土日の運行に対する意向の把握を行った。

図 10 に夕方（18 時頃の便）の増便に対する意向を示した。

生瀬地区全体では、「これまで別の時間に乗っていたのを変更して 18 時頃の便に乗車する」と回答したものは 5.4%、「これまで乗車していなかったが、18 時頃の便に新たに乗車する」と回答したものは 9.7%となった。「今は乗車しないが、将来的には利用したい」という回答が 30.7%と最も多く、「乗車しないが、あれば安心できるので、必要だと思う」が 23.1%であった。このように、将来的な利用への期待が高いことが分かった。

自治会別に見ると、宝生ヶ丘、生瀬高台、花の峯、青葉台といった現在利用が高い自治会およびサーパスでは、「これまで別の時間に乗っていたのを変更して 18 時頃の便に乗車する」、「これまで乗車していなかったが、18 時頃の便に新たに乗車する」と回答したもの生瀬全体より多くなる。他の交通手段が便利な自治会では、「乗車しない」「わからない」という回答が多くなった。

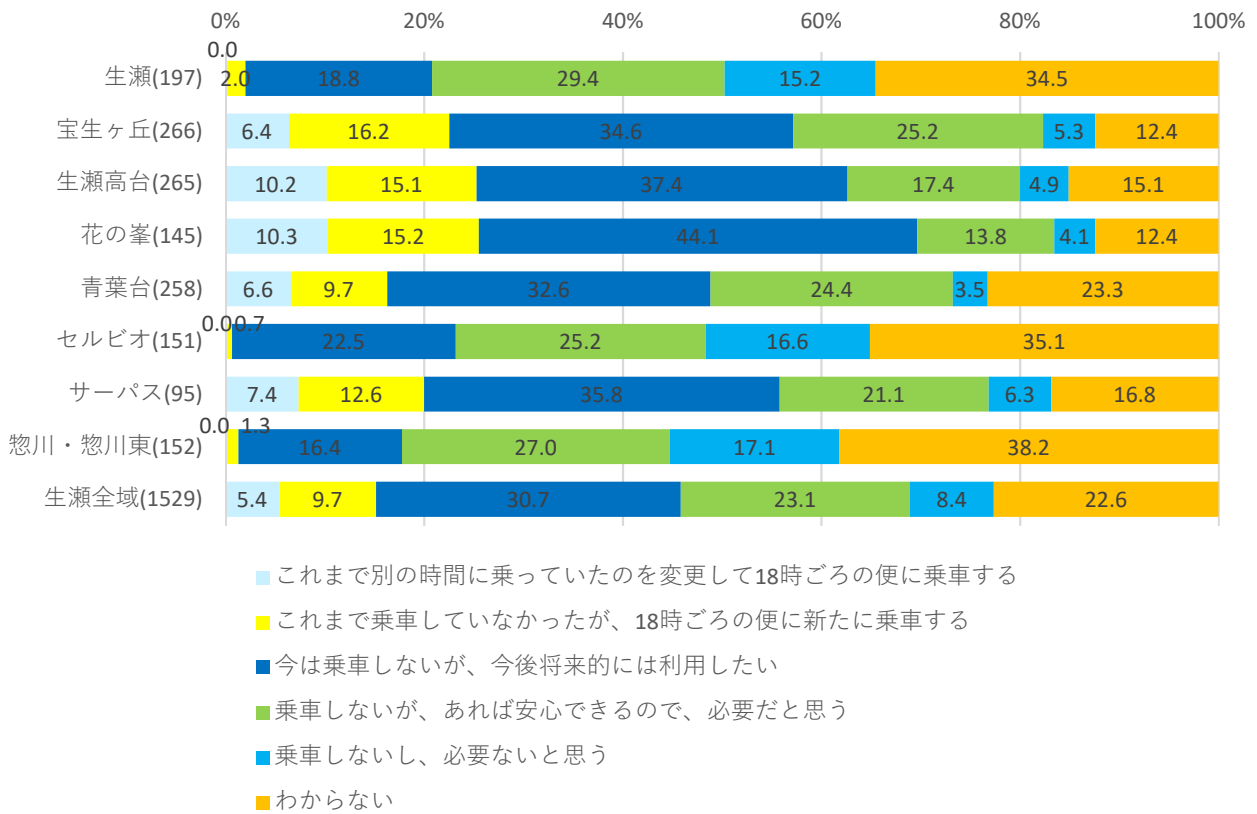


図 10 夕方の増便（18時頃の便）に対する意向（自治会別）

一方、土日運行についても、夕方の増便とほぼ同様の傾向である。

「運行本数」「運行時間帯」に関する改善として、生瀬地区全体で見ると土日の運行に対する希望が高いことが、現在の利用が多い地域からは、夕方の増便を望む声の方がつよいことが分かった。

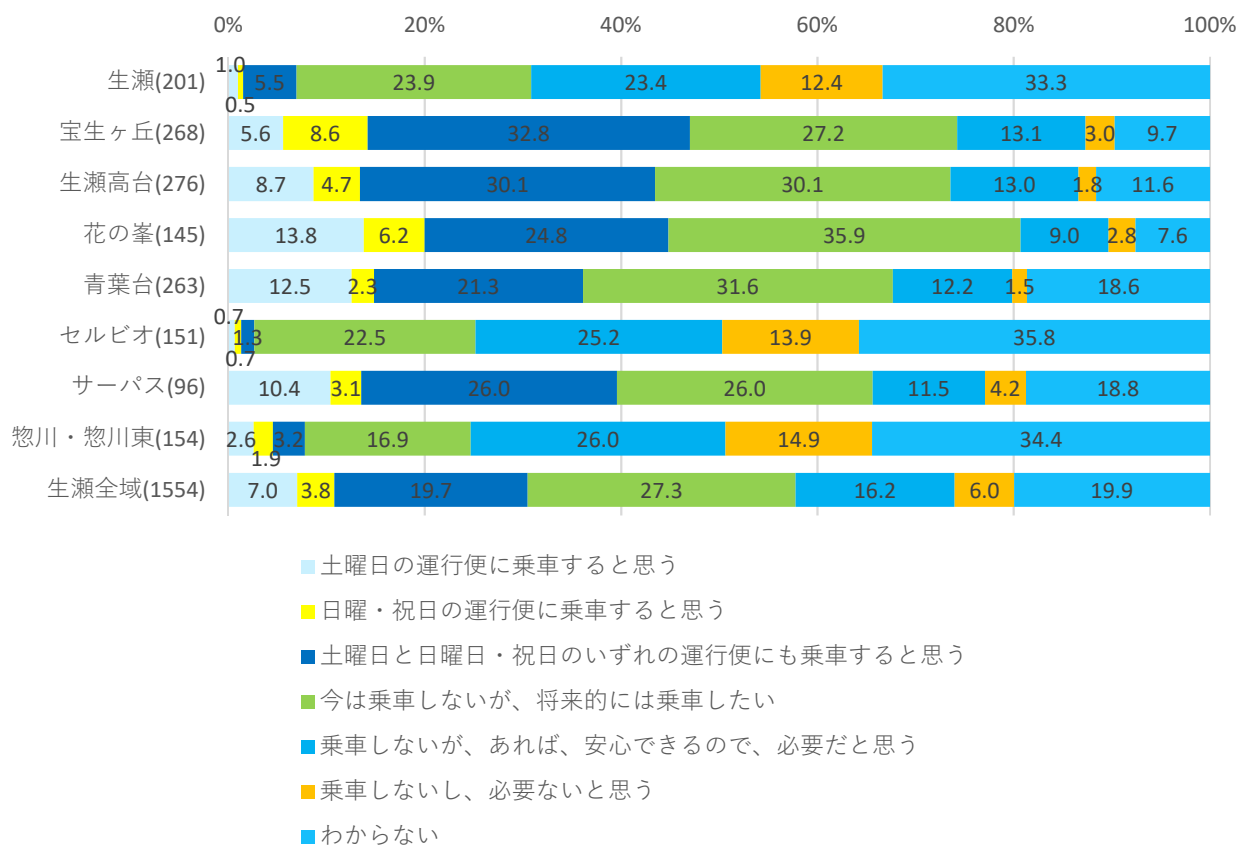


図 11 土日運行（増便）に対する意向（自治会別）

これらの夕方の増便、土日の運行は、現在の運行よりも1便あたりの利用者数が少ないと予測される。そのため、夕方の増便、土日の運行を行うことにより、欠損の増大が懸念される。そこで、夕方の増便、土曜日の運行により負担が生じた場合、その負担をどのように行うか、複数回答で質問した。結果を図12に示した。生瀬地区全体では、いずれの負担方法にも「反対」が44.3%と最も多かった。しかし、運賃として、利用者で負担するか、地域で費用負担するかの意見は分かれているが、合わせると、賛成の意見の方が高かった。

自治会別に見ると、宝生ヶ丘、生瀬高台、花の峯、青葉台、サーパスでは地元負担をしてでも増便に賛成する意見が多かった。

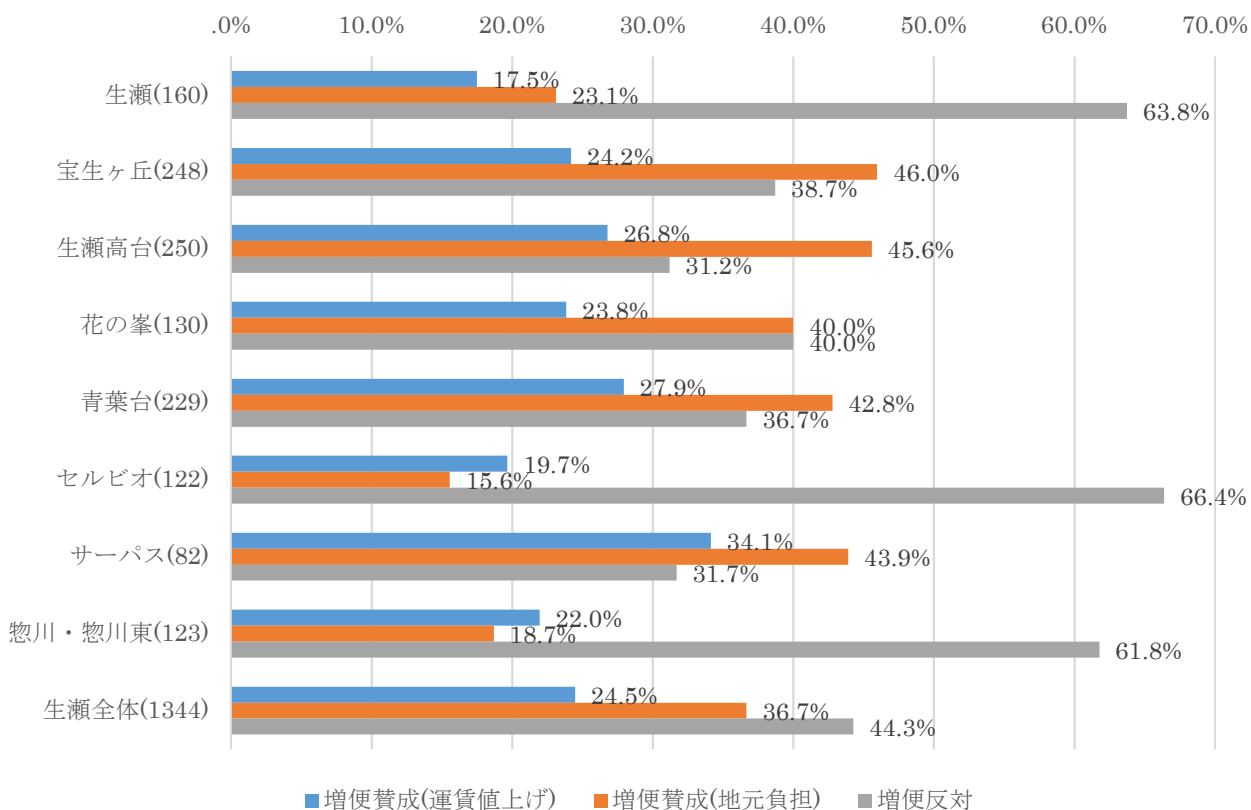


図 12 夕方の増便、土日運行による負担に対する意向（自治会別）

運行の変更に際しては、これまでも地域説明会を開催し、変更内容や議論の経緯を説明してきた。図13に地域説明会への参加経験について質問した結果を示した。

生瀬地区全体では、「参加したことがある」という回答は9.3%にとどまった。「地域説明会を知らなかった」という回答は42.6%であり、地域説明会の周知方法の向上などが必要と考えられる。また、「知っていたが参加したことはない」と回答したものの中には、出席の必要が無いという回答も含まれていると思われるが、参加したいが、都合などで参加できなかった回答も少なからず含まれると考えられる。開催日程や開催回数の検討などが必要であると考えられる。

自治会別に見ると、花の峯が他地区と比較すると地域説明会へ「参加したことがある」との回答の比率が高かった。さらに、「知っていたが参加したことはない」と回答したものを合わせると、74.1%となる。また、ぐるっと生瀬の利用数が多い、宝生ヶ丘、生瀬高台、花の峯、青葉台、サーパスについては、地域説明会へ「参加したことがある」、「知っていたが参加したことはない」と回答した比率が高かった。しかし、他に交通手段のある自治会では、比較的関心が低い実態がわかった。

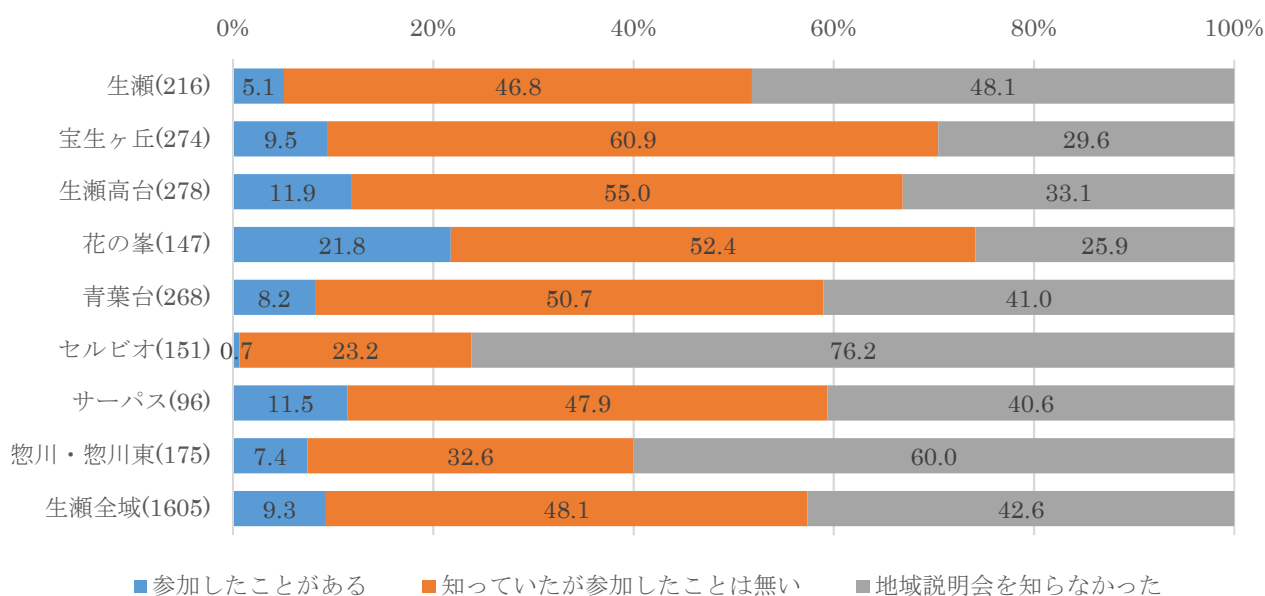


図 13 地域説明会への参加経験（自治会別）

4. 広報活動について

図 14 にぐるっと生瀬の認知度を示した。生瀬地区全体では、95.0%が知っていると回答している。全く知らないは 0.8%にとどまった。ぐるっと生瀬では、様々な広報活動が行われてきた。その成果が現れたと考えられる。自治会別に見ると惣川・惣川東で認知度がやや低い事がわかった。

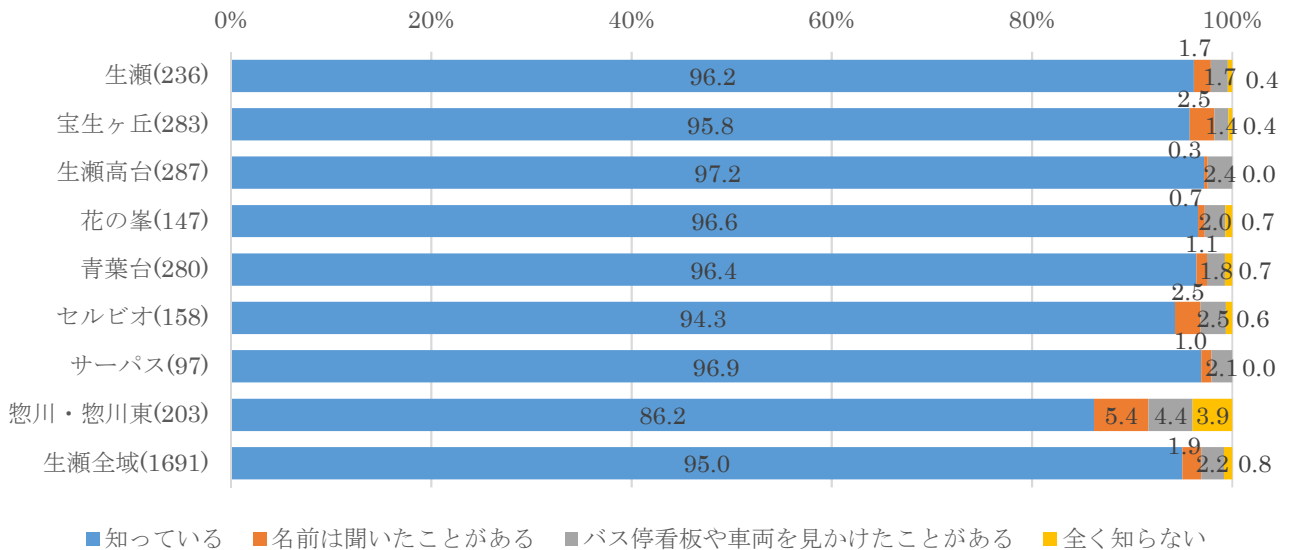


図 14 ぐるっと生瀬の認知度（自治会別）

ぐるっと生瀬のマスコットキャラクターとしてぐるっとチャンが作成され、様々なイベントなどに出席し、ぐるっと生瀬の広報活動に活躍している。このぐるっとチャンの住民での認知率を質問し、その結果を図 15 に示した。

生瀬地区全体では、「知っている・見たことがある」という回答は 41.1%に上り、多くの生瀬地域の住民の目に触れることができていると分かった。

自治会別では、比較的利用が多い自治会に加えて、生瀬で「知っている・見たことがある」と言う回答が多いことがわかった。

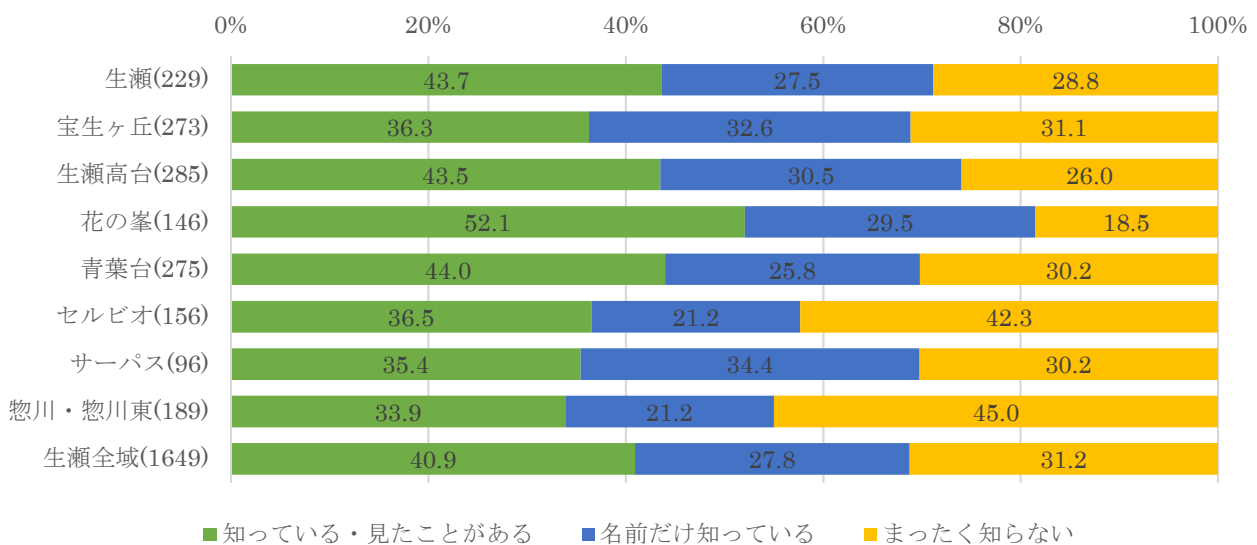


図 15 マスコットキャラクター（ぐるっとチャン）の認知度（自治会別）

ぐるっと生瀬の広報のため、会報が2ヶ月に1回発行されている他、ホームページが開設され、随時情報が発信されている。このような広報活動に対する住民の閲覧状況を質問し、図16にまとめた。

生瀬地区全体では、会報・HPともに見たことが無いという回答は22.0%にとどまり、多くの住民の目に触れるよう情報発信が行えていると考えられる。

自治会別に見ると、会報に関しては、宝生ヶ丘、生瀬高台、花の峯、青葉台、サーパスで、50%以上の人がいつも見ていると回答した。一方、セルビオ、惣川・惣川東の方々では、1/3以上の方が、「会報・HPは見たことが無い」と回答している。

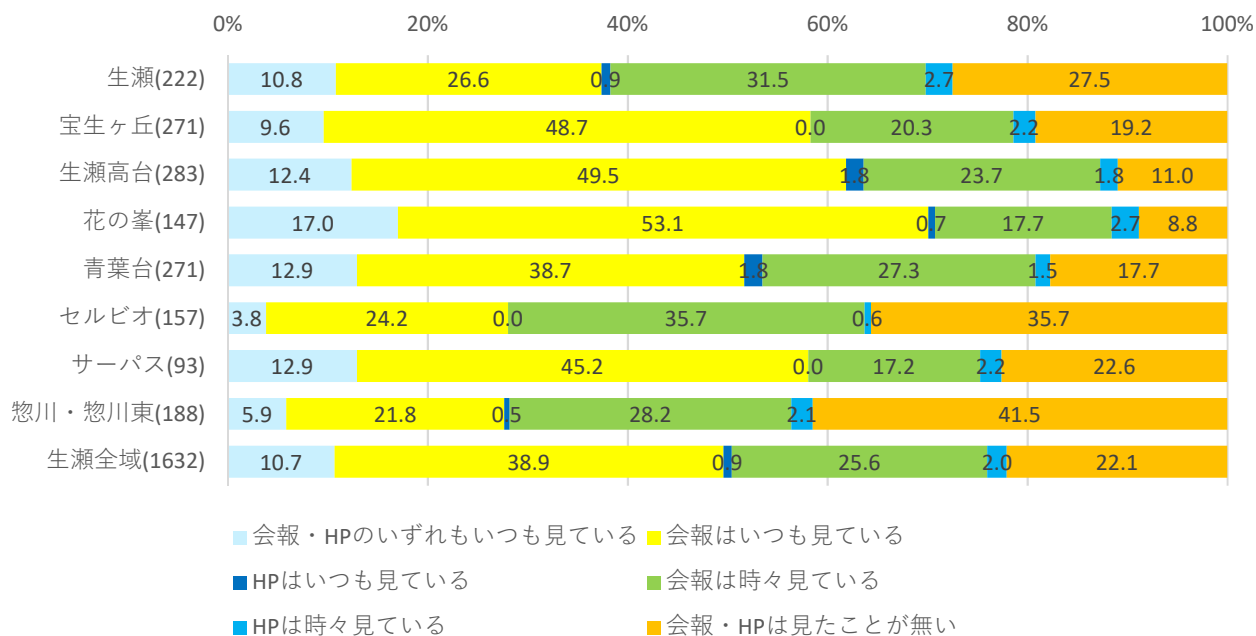


図16 会報・ホームページの閲覧状況（自治会別）

5. 普段の外出

本調査の回答者の外出頻度を質問し図 17 に示した。

生瀬地区全体では、「土日祝を含むほぼ毎日」外出しているという回答が最も多く 38.2%であった。週に3回以上の外出している人も、合計で 75.2%いる。

自治会別で見ると、生瀬高台、花の峯、青葉台で、生瀬地区全体よりも外出頻度が低いことがわかった。これらの地域では、高齢者の回答が多かった影響と考えられる。

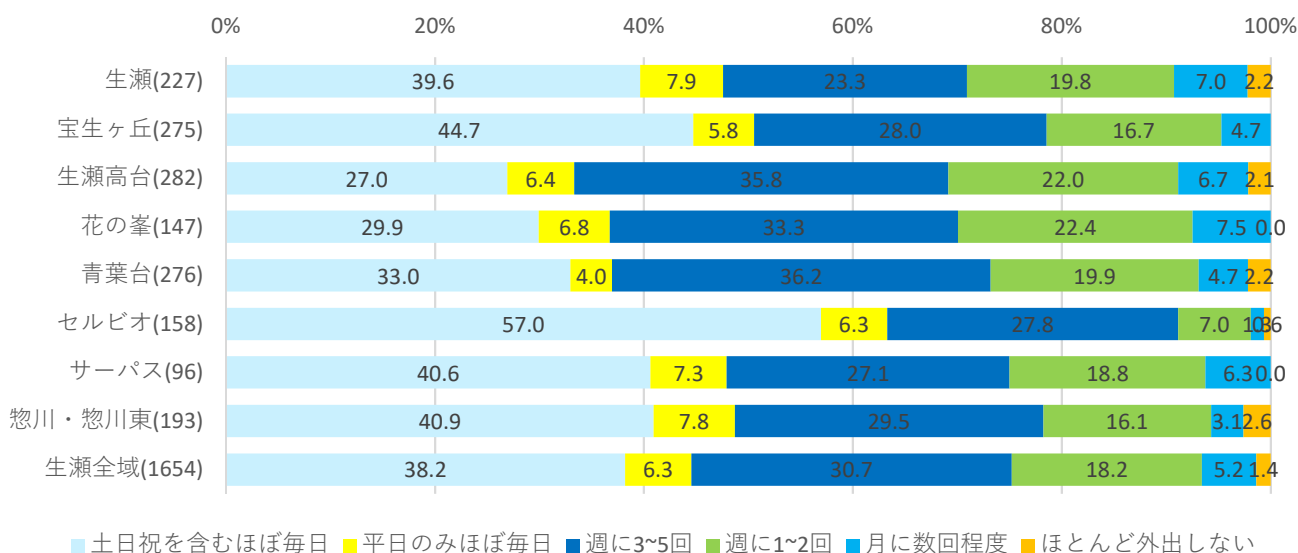


図 17 外出頻度（自治会別）

同様に回答者の外出時に利用する交通手段を複数回答で質問し、その結果を図 18 に示した。徒歩の利用が最も多く 57.3%であった。自分で運転する自動車も比較的多く、51.3%であった。これに対してぐるっと生瀬は、20.7%の人が利用する交通手段となっており、タクシーと同程度の結果となり、地域ではある一定の存在感を示していることが分かった。

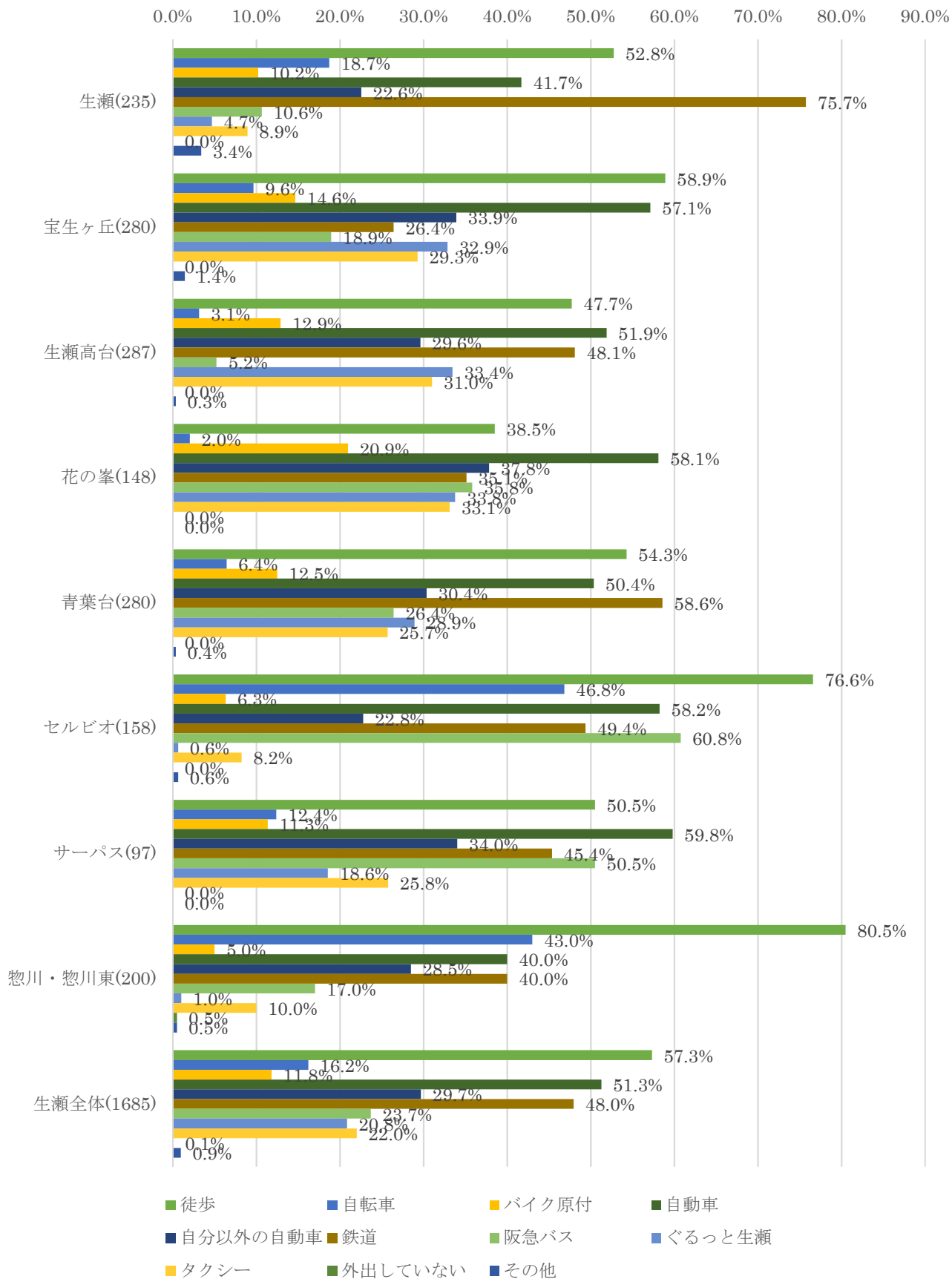


図 18 外出時に利用する交通手段（自治会別）